

2. RS ウイルス感染症について

肺炎を引き起こすウイルス感染症の1つとして注意喚起されているのがRSウイルス感染症です。年齢を問わず生まれたばかりの新生児から高齢者まで幅広い年齢層で何度も感染すると言われています。風邪様症状を伴う呼吸器感染症として知られており、**ほぼ全ての新生児、乳幼児が2歳までに感染する**と言われています。多くの場合、軽症で収まりますが心疾患など基礎疾患がある子どもや免疫力が弱い早産児、そして、**新生児や乳幼児が初めて感染した場合には重症化する**可能性があります。しかしながら、インフルエンザなどに比べその認知度が低い状況のため本市の取り組みを質問致しました。



Q 1. 館山市の新生児、乳幼児のRSウイルス感染症の罹患状況と感染予防に対する具体的な取り組みについて伺います。

A . 感染症の状況把握をしている千葉県との報告によると近年では令和3年に安房管内でも流行しましたが以降は大きな流行は見られていません。予防に対する取り組みとしては手洗い、マスク着用、おもちゃの消毒など、予防の必要性について周知に努めて参ります。

所感 RSウイルスは飛沫感染や接触感染で広がり、**肺炎**を引き起こす感染症です。感染した乳幼児の**30%は呼吸困難**などの症状がある下気道炎を引き起こし、**新生児においては突然死を招く**ことがあります。**高齢者**が罹患し入院するとその後に**要介護状態**へ移行することがあり、医療費を圧迫します。特効薬が無い為、**RSウイルスワクチン接種が唯一の予防法**です。

将来に向け費用の助成の検討を要望しました。

皆様からのご要望が実現しました！！



<帯状疱疹ワクチン接種費用に館山市の助成金適用>

帯状疱疹は子どもの頃にかかった水ぼうそうウイルスが原因となり加齢や疲労、ストレス、病気などで免疫機能が低下すると発症する、皮膚に痛みを伴う赤い発疹が現れる病気です。上半身に症状が現れることが多く顔面に出た場合には視力低下や聴覚異常、顔面麻痺などに至る事があります。また、治療が遅れると皮膚症状が治っても痛みが長期間にわたって続くことにより、離職や要介護状態に及ぶなど日常生活に支障をきたす場合があります。

日本人成人の**90%以上に発症の可能性**があり、50歳以上の発症者の約2割が帯状疱疹後神経痛になり、80歳以上では約3割とより高くなります。

予防にはワクチン接種が有効です。令和7年4月1日より帯状疱疹ワクチンが定期接種の対象となりました。令和7年度の対象者は令和7年4月2日から令和8年4月1日の間に**65歳**を迎える方と5年間の経過措置として同期間に**70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳**になる方、今年度に限り**101歳以上の方全員**です。定期接種の対象になるのは**1人1度限り**です。

私は令和5年9月と令和6年3月議会の行政一般質問、令和7年2月議会一般会計予算質疑の合計3回において帯状疱疹ワクチン接種費用の助成を求めて参りましたが令和7年度分より定期接種の対象者へ市の助成が決定されました。助成金は生ワクチンには**3,000円**（1回のみ接種）、組換えワクチンには1回ごとに**6,000円**（2ヶ月以上間隔を置いて2回の接種が必要）です。対象者には市より予診票が郵送されており、助成を受ける為にはこの予診票を医療機関に提出することが必要です。